

（午前10時45分 再開）

○議長（小林 弘君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番16、10番 高本君。

〔10番（高本勝次君）登壇〕

○10番（高本勝次君）皆さん、おはようございます。最後になりまして、一応こういう届けを出しておりますので、このとおり通告に従ってやらせていただきます。

今回の、はじめに感じていることは、健康福祉部長は引っ張りダコで、何回も何回も、答弁つくるのも苦労されたと私はすごく推察するんですけど、ご苦労さまです。

そうしたら、私のほうからさせていただきます。4項目あります。

一つ目は、新型コロナウイルス感染症の検査拡充についてでございます。

新型コロナウイルス感染症は市民の命と健康、暮らしに深刻な影響を与えています。営業が成り立たない、収入が減って暮らしが大変など、多くの市民から切実な声が寄せられています。

今、行政には、さらなる感染拡大を未然に防ぎ、市民の誰ひとり取り残されることのない、暮らしや営業を守る施策が今求められています。

新型コロナウイルス感染症を封じ込めるためには、無症状感染者を見つけ出し、把握、保護することが決定的に重要です。無症状感染者を把握していないために、現状のような感染拡大が起こっていると思います。

一つ目ですが、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部は本年5月28日に、「高齢者施設の従事者に対する集中検査の対

象施設の拡大について」という事務連絡を出しました。その中でこのように書いています。

4月から6月までをめぐとする高齢者施設等の従事者の集中的検査の実施を指示しました。

本市の高齢者施設等において、新型コロナウイルス感染症検査を具体的にどのようなやり方で進めておられるのか、お聞きします。

二点目に、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課は本年5月28日に、「小学校、中学校及び高等学校等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項について」という文書を出しまして、事務連絡を出したんですが、その中で、「各教育委員会におかれては、感染症への対応にあたって、学校施設に限らず、学校の教育活動を支える関連施設も含めて、教職員等の健康管理にご留意いただきたい」という指示をいたしました。

事務連絡にはほかにも幾つか指示が出されていますが、本市はどのように対応されていますか。

大きな項目二つ目なんですけど、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種についてお聞きします。

今回のような大規模な予防接種は大変な事業であります。かかりつけ医による接種、さらに集団接種には、医療関係者やスタッフが多数必要であります。市民への安全迅速な接種に向けた体制、きめ細かい対応が必要だと思います。現在の進捗状況はどのようになっているか、お聞きしたいと思います。

大きな項目三つ目ですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けている生活困窮者への対策についてお聞きします。

新型コロナウイルス感染症拡大での生活支援対策、特に女性に多いパート等の非正規労働での失

業者や生活困窮者への支援として、どのような施策を考えておられますか。

また、新型コロナ感染が出て約1年半経過しましたが、その後、生活保護の申請者数と生活保護受給世帯数はどうなっていますか。

最後に四つ目ですが、第2次橋本市長期総合計画の農業分野についてお聞きします。

長期総合計画の推進と今後の課題についてということで、まず、一つ目に、学校給食の食材で地元農産物の利用比率は何割かということでお聞きするんですが、これ私も聞きましたら、この比率は県で管理していることですので、その比率はいろいろお聞きしております。

二つ目に、地元農産物を学校給食などに利用する地産地消のさらなる推進を課題に掲げていますが、地元農産物を食材として利用する割合を今後具体的にどう引き上げていくのか、お聞きしたいと思います。

三つ目に、新規就農者数の現状と総合計画で掲げている目標値の見通しについてお聞きしたいと思います。

以上、壇上からの質問は以上でございます。ぜひご回答よろしくお願いたします。

○議長（小林 弘君）10番 高本君の質問項目1、新型コロナウイルス感染症の検査拡充に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（土井加奈子君）登壇〕

○健康福祉部長（土井加奈子君）新型コロナウイルス感染症の検査拡充についてお答えします。

感染力の強い変異株により新型コロナウイルス感染症が依然として収束しない中、感染防止策の徹底と医療提供体制の確保が重要施策となっています。

高齢者施設等に入所する高齢者等は重症化リスクが高く、施設内でのクラスターが発生

した場合は入所者や施設運営に影響が出ることから、感染者を早期発見するため、厚生労働省は令和3年2月4日に「高齢者施設の従事者等の検査の徹底について」として、都道府県や保健所設置市、特別区宛てに通知しています。

議員おただしの、5月28日に通知された「高齢者施設等の従事者等に対する集中検査の対象施設の拡大等について」ですが、国は外部との接触機会の多い通所系事業所にさらに範囲を広げるよう、都道府県や保健所設置市、特別区宛てに通知されています。

事業実施主体の県では、新型コロナウイルスのクラスター発生が医療機関や介護施設などで相次いだことを受け、令和3年4月に、病院や高齢者施設の新規の入院・入所者や体調の気になる職員を対象に抗原検査を実施することを決め、1法人当たり1箱、25回分の抗原簡易キットを配布しました。

5月10日から6月6日までは新規感染者が急増している状況を踏まえ、施設等への感染の持込みと感染拡大を未然に防ぐため、高齢者施設、介護事業所の全職員を対象に範囲を広げ、抗原簡易キットによる週1回程度の定期的な検査を実施しました。

実施した検査数や陽性者数については施設や事業所から和歌山県に定期的に報告することになっていますが、現在、和歌山県において集計中であると聞いています。

6月7日以降については、昨今の感染者数の減少傾向を踏まえ、新規入所者並びに全職員のうち体調の気になる職員や県外を訪問した職員と、検査対象者を変更しています。

議員おただしの、高齢者施設等の従事者等の集中的検査の実施については、県において既に取り組んでいます。

○議長（小林 弘君）教育長。

〔教育長（今田 実君）登壇〕

○教育長（今田 実君）次に、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言等を踏まえた、小学校、中学校及び高等学校等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項についての対応にお答えします。

まず、一点目の、感染症対策の徹底については、昨年6月に市内小・中学校一斉の臨時休業から学校が再開し、文部科学省の学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルを参考にし、マスクの着用、手洗い、3密の回避と消毒、また、児童生徒及び教職員の健康観察を行い、発熱等、風邪の症状がある場合は登校・出勤を控えるようにするなどの基本的な感染症対策を継続しているところです。

次に、二点目の、中学校の部活動については、県立学校の対応に準じ、4月以降、県外の学校との練習試合や合同練習等の禁止、4月20日以降からは県内の学校との練習試合や合同練習等の禁止も追加され、制限のある中で活動を続けてきました。

ようやく6月1日から県内の学校との練習試合や合同練習等が可能になり、各競技で感染症対策を講じながら活動しているところです。

次に、三点目の、学校教育活動の継続については、感染状況にもよりますが、各学校ができることを考え、可能な限り今までの教育活動を継続できるよう進めています。

運動会や修学旅行等の児童生徒の成長をより促す大きな行事については、校長会と教育委員会で協議を行い、今回は延期することとなりましたが、実施する方向で検討しています。

最後に、四点目の、運動時のマスク着用については、これからますます暑くなり、熱中症も懸念されるところです。学校では、体育

等の運動時はマスクの着用は必要なく、熱中症も命に関わる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先させることになっており、登下校時においても同様の対応をすることになっていきます。

今後もこのように持続的に児童生徒の健やかな学びを保障していくため、学校における感染並びに拡大のリスクを可能な限り低減した上で学校運営を継続していくこととなります。

○議長（小林 弘君）10番 高本君、再質問ありますか。

10番 高本君。

○10番（高本勝次君）それでは、一点目、お聞きします。

先ほど答弁いただいたんですが、6月7日以降については、新規入所者並びに全職員の対象になる職員、県外へ訪問した職員へと検査対象を変更しているということなんですが、ちょっとお聞きしたいんですが、6月7日以降の検査状況を分かる範囲でご答弁いただけるでしょうか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）6月7日以降につきましては、まず、検査キットの配布のほうなんですけれども、議員おただしのとおり、5月28日に厚生労働省のほうから、都道府県、それから保健所設置市、それから特別区宛てに、今まで入所者、入所施設だけが対象だった検査を通所系の事業所にも広げてくださいということで、感染拡大状況を受けてそのような通知がなされたところで、その通知を受けまして和歌山県では、こちらのほうでは橋本保健所長のほうから各施設のほうへ、まずは3月末、3月25日に通知を出されております。

それは、検査キットを配布するので、必要でしたら取りに来てくださいという通知でご

ざいました。配布のほうがなかなか進まなかったように聞いております。それを受けまして5月7日に、1週間に1回、25回分のキットを送りますということで、その後、続けておられました。

今般の感染者の減少を受けまして、今回、6月7日以降については、新規入所者並びに全職員のうちの体調の気になる者ということで聞いておるんですけれども、申し訳ないです、人数については今のところ把握してございません。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）そうしたら、次にお聞きしたいんですが、新型コロナの感染症拡大は、無症状感染者が知らず知らずの間に感染を広げているというのが大きな原因の一つであると考えます。専門家もそのようにおっしゃっているんですが、また、この無症状感染者を見つけ出すためには検査をすることが最も有効だと、当然そう思うんですが、そのようにお考えでしょうか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）議員がおっしゃるように、検査をして早期に発見することは重要なことだと考えます。思っています。

ただし、抗原検査またはPCR検査につきましては、和歌山県が執り行っていたくように承知しておりますので、県のほうの指示に従いたいと思います。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）そうしたら、三つ目にお聞きしたいんですが、市民の命と健康を守る直接的な責任は、まずは私は本当に、本市にあると思います。県や国の対応もあるんですが、もういっぺんは本市にあると思います。コロナ感染から市民を守るためにできることは積極的に実行すべきだと思います。

新型コロナウイルス感染症の無症状感染者を見つけ出し、把握、保護するためにはどうしても検査が必要ということであり、検査をすることによって感染拡大を最小限に抑え込むことが可能であります。

せんだって和歌山県は抗原簡易キットを一つ1,000円ぐらいの予算で購入したということになっております。その後、さっきおっしゃっていたように、通所施設にもすることで、かなりまた追加で購入したということになっております。

安価で購入できる抗原簡易キットを備蓄して、希望する市民の皆さんに検査を実施していただきたいと、すごく思います。そういう意味で、大阪等の近隣県に通勤・通学されている方がかなりおられます。そういった皆さんは非常に不安を持っておられますので、この抗原簡易キットの備蓄というのか、そういうことを通じて、そういう希望者に、全員じゃなくて希望者に実施していただけたら、すごく安心が市民の中に出ると思いますので、その点はいかがでしょうか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）高本議員には、3月の市議会定例会と、それから4月の臨時会において、この抗原検査キットのお話をいただいております。私、4月にはうまくお答えできませんでしたので、今回いろいろ調べさせていただいたんですけれども、また、保健所のほうとも話をさせていただきました。

おっしゃるように、比較的安価に手に入るということで、先ほど申しましたように、検査をして早期発見ということは大変重要かとは思いますが、まずは市と県との役割分担をすべきかなと思います。今、ご存じのように、ワクチン接種がかなり多忙となっております。

保健所の担当の方とも話をしたんですけれども、検査についてのことは県のほうで国の方針に基づいて進めていきますと、市のほうがワクチン接種頑張ってくださいということでお答えをいただいていますので、やはり県において進めていっていただくべきかと考えております。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）それは仕組みとして、前提としてそういうふうになっているのはよく分かるんです。

私が思うのは、高額なものを買って検査するというのではないわけで、市独自にできることはないと思うんです。それで、1個1,000円としたら、和歌山県が購入したのが1個1,000円でしたら、1,000個買うたって100万円ですもんね。だから本当に不安を持っておられる、特に大阪へ勤務・通学している人は気になってしょうがないと思うんです。

新しい変異型のコロナが今出てきて、感染力が高いと言われているし、そういう意味では今、現状では、昨日も橋本保健所管内では2人だったんですけれども、変異型のウイルスというのがやっぱり日々出てきていますので、そういう意味ではその不安を取り除くために、まずは、さっきはじめに申し上げたように、本当に市民の健康、命を預かるのは市だと思うんです。だから、市でできないことはないことはやっていかないかんと思うんです。和歌山県との役割分担はあったとしても。そこはやっぱり市民に対する責任を持った市の行政としての立場からやるべきだと思うんですが、その辺の。

先ほど答弁いただいた、仕組みは分かるんです。役割分担は分かるんですけど、そやけど、市民の側からしたらやっぱり心配なので、どうしても橋本市、市の行政のほうでやっていただけないかなという気持ちはあると思う

んです。

だから、高額なものでないんですから、これをやれば、やっぱり感染を防ぐことにつながっていきますし、大きな役割を果たすと思うんです。そういう意味で前向きにこれをやるということでなかったら駄目だと私は思うんですが、どうでしょうか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）一点、先ほど通知の関係で話がもれたんですけれども、5月28日に厚生労働省から通所系の事業所にも簡易キットを配布するという通知があったのと同時に、文部科学省のほうからも、大学、専門学校、高等学校、特別支援学校を対象にということで通知が出ております。この中には一定、小・中学校が含まれておりませんでした。

市のほうでというのも、もちろん高本議員のお気持ちはすごく強く伝わってくるんですけれども、今後、感染の拡大状況を受けて県のほうとも相談をしまして、必要であるときが来るとすれば、またそちらのほうは考えていかないといけないかもしれないんですけども、現時点ではこちらのほうには予算を配分していないところもございまして、現時点では抗体検査キットの備蓄ということはおきません。そこはまたご理解いただきたいと思っております。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）繰り返しの質問になるんですが、市民の命を預かるのは、直接的には、身近はやっぱり市だと思うんです。だからやっぱり、それをぜひとも、高いものではないので、やればやっぱりそれが防げることやから、感染を防ぐためにも進んでやっぱりやっていただきたいということなんですけども、ぜひとも検討していただくように。

財政課長も、1,000個買って100万円足らず

の、足らずと言うたら失礼かもわからんけど、財政的には厳しい金額でないと思うんです。そういう意味では、財政の担当課からもそういうふうに向きをやっているというふうな考えを示していただければ助かるんですけども。

○議長（小林 弘君）財政課長。

〔財政課長（井上稔章君）登壇〕

○財政課長（井上稔章君）政策的な判断もございますので、担当課と十分協議した上で進めていきたいなと思います。

以上です。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）それでは、次にお聞きします。

コロナ感染ですごく心配な市民がたくさんおられるのは当然なんですけど、お聞きしたいんですけど、地震、台風があったときに、災害があったときなんですけど、大きな災害があったときに、避難所に抗原検査キットを備蓄して置いておけば、必要なときに早期に検査できるという体制ができると思います。

そういう意味で、そうすれば保健所が駆けつけるとか、そういう初期段階の負担も減らすこともできるし、避難所への設置を、そんなに多くはないと思いますので、お伺いできるでしょうか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）避難所への備蓄ですか、検査キットの。健康福祉部局と危機管理室との今後の協議になるかと思えます。まずは、今のところは市全体として備蓄させていただく予定をしてございますので、避難所についての考え方は同じとなります。

○議長（小林 弘君）危機管理監。

〔危機管理監（廣畑 浩君）登壇〕

○危機管理監（廣畑 浩君）避難された場合のことになるかと思うんですけども、昨

日も申しましたけれども、今、備蓄品について全体的な見直しをしている作業中でございます。

ただ、議員おっしゃるようなPCRだとか抗原検査というものについてのキット、これにつきましては、考え方もいろいろあるかと思うんですけども、1回やって、それで検査の結果がどうかというのはその時点では、暫定的に分かるのかもわかりません。ただ、これを継続してやってこそ、その状況の推移、あるいは感染の拡大防止ということにつながるのかなというふうには思います。

ですから、1回限りの単価が安いからといっても、それを継続するというのを考えますと、相当程度の財政負担も考えられますので、若干ちょっと考え方の相違もあるかと思えますけれども、現時点ではちょっと難しいかなというふうには考えております。

○議長（小林 弘君）高本議員、先ほどから言っていたおけるキットについてお答えしていただいているんですけど、災害拠点についてはまた違う、次の段階になってくると思いますので、何かちょっと方向を考えていただけたらありがたいんですけど。

10番 高本君。

○10番（高本勝次君）抗原簡易キットのことについて聞いているので、何も関係ないことはないと思いますので、そのことだけちょっと言うておきます。

そうしたら、お聞きします。

壇上でもお聞きしたんですけど、文部科学省の初等中等教育局健康教育・食育課の事務連絡、先ほど言いましたけども、小学校、中学校、高等学校等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項ということで書いておるんですけど、ここには、各教育委員会におかれては、学校施設に限らず、学校の教育活動を支える関連施設も含めて、

教職員等の健康管理にご配慮いただきたいと指示しています。

したがって、学校、学童保育、保育所、こども園等の児童関係職員に抗原簡易キットによる定期的な検査が必要だと私は思います。その意味で、職員の安全安心を守る必要があると思いますので、今申し上げたような内容からいって、本市独自に児童関係職員に対する検査の実施計画を持っていただきたいと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（小林 弘君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）高本議員の質問にお答えします。

先ほどから議論を聞かせていただいている、例えば1,000人でいいというんやったら、市民の人に全部行き渡るわけじゃないですやん。本当に市民の全員にしようと思ったら、6万2,000人分ぐらいのものが要るんじゃないんですか。

それはそれでいいんですけど、ただ、問題は値段の安さじゃなくて、マンパワーがどの程度確保できるかなんです、現状は。今、私もワクチン接種で多くの職員を投入しているんです。土曜日に来らしている職員もいてますし、市民病院へ応援に行かしている職員もいます。そして、例えば、では、正確に取れる職員がいるかという、現実、抗原検査でもなかなか難しいし、抗原検査の確率もそんなに高くないです。

そういう中で、県があくまで、橋本市に保健所はありますが、これはあくまで県の管轄なんです。やはり、もう少し県がそうしたら広げましょうというふうな結論を出していただけたら、私どもとしてどうしていくかということも考えられますし、例えば、学校、あるいは、こども園、保育園の皆さん全員に検査するとなると、相当なマンパワーも必要

になってきますし、では、それだけ検査で分かったときの後の対応というのでも考えておく必要があります。

陽性が出たら、まず保健所に連絡するというのもしていかないと、ただ、県がそういうことやれとは言っていない中で、うちが独自に広げて対応できるかという、和歌山市みたいに保健所を持っていたら別ですけども、そういういろんな問題があるので、ただ単に市独自でやれと言われてもなかなか難しい問題があって、それを一つ一つクリアしていかないと。

国も言っているのが、今、一番の最善の方法はワクチン接種を進めていくことやと。だから、国も11月までに希望する全国民に対して接種を終わらせなさいというふうな話になっていますし、やはり何を優先させるかというのを考えていかないと、マンパワー的には本当に厳しい状況になります。

もしそれをやるとしたら、職員全員、土日も出勤せよというふうな形にもなりかねんということで、もう今でも、ワクチンでもかなり時間外が増えて、2人職員を増やしましたが、今後まだ一般の接種をするところで、これからまだ人員を増やさなアカンのかどうか。

これから集団接種に、これから土日も打っていきますから、土日も職員を駆り出さなアカンというような状況も出てきます中で、市としては今、抗原検査を重点に置くよりも、ワクチン接種を、私らももう11月中に希望する全市民に、皆さんには終わらせたいという希望、目標も持っておりまして、昨日の17番議員にも答弁したと思うんですけども、希望しない、でも、打ちたくなつたという人のために情報も出しながら、今考えている人たちに対しては2月まで受けるチャンスはありますよというふうなことを、逆に重点的に進

めていったほうが、市民のためのコロナ対策になるのではないかというふうに考えておりますので、ご理解よろしく申し上げます。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）私がさっき申し上げたのは、市民に対するようなことに対しては希望者ということで申し上げたので、マンパワーでなくて、そういうふうなことでやれば大量の用意は必要ないと思います。

それで、もう一つお聞きしたいんですが、実際、学校でやっておられるところがあります。参考にお考えをお聞きしたいんですが、一つは静岡県掛川市なんですけど、ここは人口多いんですが、抗原検査キットを備蓄して、学校現場などの不安があるところに積極的に活用し、感染拡大を防止しているということをおっしゃっています。

香川県三豊市では、ここは人口6万4,000人で変わらないんですが、無症状者でも感染の不安がある人を対象に無料で抗原検査を実施し、市民のほか市内の事業所や学校に勤務・在学している人も対象にしているということです。

福岡県古賀市では、5万9,000人の人口で、抗原検査キットを市独自に備蓄し、市内の保育所・幼稚園や小・中学校、高齢者施設、障がい者施設などに配布している。無症状の陽性者の早期発見、クラスターの発生抑止で感染拡大防止に寄与しているというふうに言っています。

石川県羽咋市では、小・中学生に抗原検査キットを提供しているというようなことでされているんですが、こういった形で小学校、中学校で抗原検査キットをすごく活用されているということを知っていただきたいと思います。

そういう意味では、繰り返し、抗原検査キットは県の役割分担ということになるんです

が、そういった、やっているところをちょっと申し上げておきます。

この質問はこれで終わります。

○議長（小林 弘君）次に、質問項目2、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（土井加奈子君）登壇〕

○健康福祉部長（土井加奈子君）新型コロナウイルス感染症ワクチン接種についてお答えします。

新型コロナワクチンの接種は、予防接種としてかつてない規模で行われるもので、国、県、市町村の連携はもちろん、医師会の医師、看護師をはじめ、医療機関の皆さまには多大なご尽力をいただいているところであり、深く感謝申し上げます。

5月17日からは市内37医療機関で、高齢者の個別接種と併せて、高齢者施設での接種も実施されています。8月7日で75%の方が2回目を終了できるよう、紀和病院及び市民病院には土曜日の接種を、個人の医療機関には前倒しでワクチン接種をお願いしています。

高齢者の接種の次には16歳から64歳までの接種を開始すべく、6月16日には接種券を対象の方にお送りしており、今後、接種をさらに進めていきます。

接種券の発送時には市民の方からの問合せが増加します。このため、コールセンターの運営については、7月11日までは土日も受付を行い、市民の方からの問合せに対応します。

高齢者接種においては個別接種を基本としていましたが、64歳以下の方の接種は、接種スピードをさらに加速するために、個別接種に加え集団接種も実施します。集団接種は8月28日から10月24日までの土日を利用し、本市保健福祉センター内で1,980名のワクチン接種を行います。

既に地元医師会、薬剤師会や橋本市民病院からの医療従事者の派遣協力を得ることができており、事務スタッフについても、市職員を動員し、会場運営にあたります。会場運営に必要な備品、医薬材料等については、今後、医師会や市民病院、消防と協議を行いながら充実させていく予定です。

本市における集団接種は近年は実施していないことから、近隣の市の運営状況の視察を行い、それらを参考に7月22日には集団接種会場の運営のシミュレーションを行い、課題の確認を行います。

なお、12歳から15歳までの児童生徒については調整中ですが、対象の児童生徒に対して意向調査を実施したいと考えています。

接種を希望する市民の皆さまが安全に安心して接種を受けられるよう、万全の体制を整え、実施したいと考えています。

○議長（小林 弘君）10番 高本君、再質問ありますか。

10番 高本君。

○10番（高本勝次君）お聞きします。

昨日も質問が同僚議員からありましたが、個別接種、集団接種に行けない高齢者にどのように対応されているかということなのですが、訪問クリニックですとありますが、実際、訪問クリニックをしていただけたところは何か所あるんですか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）訪問で今対応していただいている医師は1名です。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）1名なんですけど、1名でいけるというふうに見ておられるのかをお聞きしたいと思います。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）かかりつけ医で接種していただくことを橋本市では推奨

してございますので、かかりつけ医ということで、今、1名の医師が対応していただいています。またほかに、もし訪問での接種を希望される方がおられましたら、また調整していくことといたします。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）その1名の先生なんですけど、それはその先生のかかりつけ医になっていない方にも行っていただけるんですか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）訪問で医療を行っている先生については、かかりつけ患者さんへの接種を行っていただいています。

ただし、おっしゃるように、今後というか、これからまだもう少し、7月末までの期間の間で高齢者の方がほぼ終了するようというこの予定をしている中で、もし訪問して接種を希望される市民の方がおられましたら、この訪問医に限らず調整をしていかないといけないとは思っております。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）それでは、お願いいたします。

時間がありませんが、二つまとめて。

大阪へ勤務されている方はかなりおられると思います。集団接種6回、土日、実際これ1,980人だったか、何か人数が、それだけの人数でしたら、対象になる大阪へ勤務されている方でいったら計算上では全然足りないと思うんですが、どのような解釈で、これでいけるようになっているんですか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）土日の接種については、一応6クールで12回行うことを予定してございます。おっしゃるように、全市民を対象とはさせていただくんですけれども、数については確かに足りないところがあるかもしれません。

今、ご存じのように、職域接種と、それから、この近辺ですと大阪のほうで大規模会場で接種が始めておられまして、接種券を持っていけば大規模会場で接種していただけるように聞いております。

なので、大阪のほうにご勤務されている方が橋本では多いので、そちらの大規模接種会場での接種、もしくは職域の接種、企業などでご家族の方も含めた接種もしていただけるように聞いておりますので、そちらの接種の状況を見ながら、VRSというシステムには接種した人数が分かってくるので、それによって、まだもう少し接種する枠を広げないといけないようであれば、今後検討してまいります。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）職域接種は大阪のほうで、報道もされておりますけども、今広がっているようですけども、橋本市民の方でそれをされたのかどうかは掌握も難しいと思うんです。もれる方が多いんじゃないか、諦める方も出てくるんじゃないかと思ったりもしますので、その辺すごく心配もあるんですけど、いかがでしょうか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）接種をしたかしてないかの確認については、接種券をタブレットで読み込んで、VRSという全国のシステムに落とし込むようになります。ですので、橋本市民が、今、昨日も申しました56%の高齢者の方が1回目の接種を終えられている、この接種率を出すにもこのVRSのシステムを利用しております。

なので、少しのタイムラグはあると思います。打ってすぐにそれを読み込むわけではなく、その医者によっては1日をまとめてなのか半日まとめてなのかわかりませんが、VRSのシステムに落とし込むことになるので、接種

がどのくらい進んでいるかということについては、そちらのシステムで明らかになります。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）分かりました。それで掌握していただいて、あまりにもこれ少ないなと思ったら、集団接種なんかも、回数や時間的なことも含めて検討していただきたいと思うんですが、いいですか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）少ないか多いかの判断については、それぞれで違うかと思えます。70%を多いとするのか少ないとするのかということもあると思うんですけども、まずは、もし要望があつて、接種の機会がなく、お困りの方がいらっしゃったら、やはり広げていくべきとは考えます。

接種券が配られてから、高齢者の方についてはもう2か月ほど経っていますし、それから、このワクチンの接種期間というのは2月末までありますので、一度途中でリマインドをしないとけないなというふうには言っていますので、広報なりホームページなりで、接種について2月末までですよということのお知らせをもう一度しまして、それでまだ枠が足りないようであれば、その時点で検討させていただきますと思います。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）二、三日前でしょうか、テレビで東大阪市の報道がされていたんですけど、あそこも中小企業が多いまちです。中小企業のある方がまとめ役になって呼びかけて、職域接種をしようやないかということで、中小企業の従業員や飲食店の店主なんかに呼びかけてやったらいいんです。

私そこで、せんだって橋本商工会議所へ行ってきたんですが、橋本市で職域接種とか職場接種はあるんですかと言うたら、そんな聞いていませんと言うて。やっているところ

はあっても知らないですとおっしゃっているんです。

だから、そういう意味で、橋本市で難しいとは思いますが、職域接種をお考えいただけたらと、行政の側から言うのはどうなのかと思いますんですが、いかがでしょうか。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）確かに、大きな企業だけではなく、例えばテナントに入っているいろいろな会社をまとめて、そのテナント自体が接種するというような方法もあって、商工会議所であったりですか商工会であったりですかということ取りまとめていただくということは可能ではあると思うんです。

ただ、職域接種につきましては市町村が直接関与するものではなく、国とその職域との直接的なやり取りになりますので、かなり、日々報道で職域接種のことは報道されてございますので、もしご希望があればそちらのご案内をさせていただきたいと思います。

○議長（小林 弘君）次に、質問項目3、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている生活困窮者への対策に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（土井加奈子君）登壇〕

○健康福祉部長（土井加奈子君）新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けている生活困窮者への対策についてお答えします。

まず、新型コロナウイルス感染症拡大下での生活困窮者への支援ですが、生活困窮者自立支援制度として、様々な課題を抱える生活困窮者に対して、一人ひとりの状況に合わせた包括的な支援を行っています。

具体的には、ハローワークと連携し、就労に関する助言や個別の求人開拓に寄り添う就労支援、就労に不安を抱えていたりコミュニ

ケーションが苦手な直ちに就労が困難な人に就労体験等を行う就労準備支援、家計状況が見える化し根本的な課題を把握することで相談者が自ら家計の立て直しを図る家計改善支援等を行っています。

また、必要に応じて、緊急小口資金や総合支援資金の特例貸付の案内、住居確保給付金の給付を行っています。

次に、生活保護の申請者数ですが、橋本保健所管内で初めて新型コロナウイルス感染者が報告された令和2年4月以降、令和3年5月までの生活保護申請者数は45件で、そのうち新型コロナウイルス感染症の影響によるものは2件です。

一方、生活保護受給世帯数ですが、令和2年4月で321世帯、令和3年5月で310世帯となっています。

○議長（小林 弘君）10番 高本君、再質問ありますか。

10番 高本君。

○10番（高本勝次君）生活保護の世帯の数は分かりました。生活保護の相談件数なんですが、昨年3月から今年5月までに相談に来られたのが133件とお聞きしました。

そこで、社会福祉協議会へ行かれて、いろいろ貸付けの相談ということはかなりあったようでございます。件数は、今言うたその期間で、これは実際、984件あったということで聞いているんですが、これは和歌山市を除いたあれなんです、金額でいいますと約29億6,000万円だったそうであります。この8市だけで。

その中で、特に橋本市は4億9,900万円の貸付けになっているそうであります。全体の29億6,000万円ですと17%を占めていて、その次に多いのが、同じですが、岩出市も17%を占めるぐらいの貸付けを受けている状況です。

昨日も市独自の施策はないかということで、

かなりやり取りがあった質疑があったんですが、何もかも市でやることはできないと、当然そうなんです、やっぱり現状これだけ貸付けが多いということは、それだけ市民の暮らしが困っているということでもありますので、何とか本市で独自にできる施策がないかということでお聞きしたいんですが、時間がないので、簡単にお答えいただけたら。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（土井加奈子君）この貸付けにつきましても、社会福祉協議会が窓口となっていて貸付けを行っているところであります。一点、額が多いのは、やはりお困りの方が多いということ、周知が進んでいるということも一つの原因ではあるのかなとも思います。

今回、この貸付けについては最大200万円を上限に貸付けが行われているところなんですけれども、その後、今回また提案させていただくんですけれども、国のほうからの給付金が、それぞれの世帯人数によって段階的に設けられた給付金をまた給付させていただくという手だても国のほうでしていただいておりますので、それについて事務を進めていきたいと思っております。

○議長（小林 弘君）10番 高本君。

○10番（高本勝次君）最後に、4項目めの質問に移ります。

○議長（小林 弘君）次に、質問項目4、第2次橋本長期総合計画の農業分野に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（今田 実君）登壇〕

○教育長（今田 実君）第2次橋本市長期総合計画の農業分野についてお答えします。

まず、一点目の、学校給食の食材に占める地元農産物の利用比率についてのおたただしですが、学校給食センターでは地産地消と食育の推進を重点事業の一つと定め、学校給食に

おける地場産物を使用する割合を目標値としています。

これは全ての食材の中で県内産の占める割合で、令和元年度は目標値が43%で実績が46%でした。令和2年度は目標値が44%で実績が40%でした。数値が下がった原因は、コロナ禍において感染リスクを下げるために生の果物の使用を停止したためです。

次に、二点目の、地産地消のさらなる推進についてお答えします。

地産地消の取組は平成30年に策定された第2次橋本市長期総合計画に明記されており、農林業施策の課題となっています。

本市の地産地消の取組としては、官民連携による農産物直売所の設置や地場農産物を使用した学校給食の実施などに加え、「まっせ・はしもと」などのイベントにおいて地元農産物を使った郷土料理の試食会や農産物の即売会などを開催し、消費者と生産者の交流の場を提供しています。

議員おただしの、地元農産物を食材として利用する割合を今後具体的にどう引き上げていくのかにつきましては、本市特産の柿や高野山麓精進野菜など地元農産物を、市内移植店での使用や直売所での販売を通じて市民に認知いただく取組を推進しています。

また、学校給食においては、食の大切さの学びを推進する中で、地場産品の積極的な使用は重要であると考え、授業の中で、子どもたちに地産地消の大切さを知ってもらうため、地元生産者との触れ合いの場をつくり、生産時の苦労話をお聞きしたり給食を一緒に食べることで、大切に育てた食材を残さない、感謝の心を育てています。

さらに、栄養士が作成した旬の献立、郷土料理を題材とした資料を各学校での授業教材として活用しており、地域の食文化や郷土愛を伝えています。

経済推進部との連携では、新しい生産者の登録を進めるとともに、新しい地場産品に関する情報があれば提供してもらっています。また、食材の納入には、現在約4,550人分の食材となりますので、納入時期や納入可能な食材に留意しながら、地産地消の推進を行っています。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

〔経済推進部長（北岡慶久君）登壇〕

○経済推進部長（北岡慶久君）次に、三点目の、新規就農者数の現状と目標値の見通しについてお答えします。

第2次橋本市長期総合計画において、農林業施策の進捗を図るための指標として新規就農者数を設定しています。

本市で就農支援を行っている新規就農者数は、長期総合計画策定時は9名であり、10年後、2027年時点での目標を20名に設定しています。

直近の実績については、2020年度末、令和2年度末時点で21名となっており、既に目標を達成しましたが、遊休農地は年々増加しており、担い手確保対策として、今後さらに新規就農者の獲得に向け、関係機関との連携により推進していく必要があります。

○議長（小林 弘君）10番 高本君、再質問ありますか。

10番 高本君。

○10番（高本勝次君）それでは、ちょっと時間が無いので、二つまとめてお聞きします。

一つは、学校給食センターの食材は地産地消の推進で市内産の農産物も使用しています。食材の発注は登録されている地元農業事業者へ食材の見積りを出してから納品していただくという仕組みになっております。いろんな事情から、見積り出された必要量を準備、供給できない場合があります。その場合でも食材を納品していただけるのか、お聞きしたい

と思います。

もう一点、新規就農者の目標値の見通しについてもさっきお聞きしたんですが、総合計画で掲げている農家の平均所得の現状と目標値の見通しについてお聞きしたいと思います。

○議長（小林 弘君）教育長。

○教育長（今田 実君）まず、一点目の、食材の納入についてです。

市の登録事業者、特に地元の方につきましては、度々発注のほうをさせていただいて、本当に安全な野菜等を納めていただいております。

例えばの話なんですけども、例えば、タマネギを100kg納入してくださいということでお願いをして、それで、どうしてもそれが、たまたま気候等の関係で50kgしか納入できないというような場合があった場合には、キャンセル等は行っておりません。それを納入していただきます。

残りの50kg等については別の事業者が発注するか、それがもう困難であれば、別の食材で代用していくか等々の対策を取ってございます。その場合には献立等も若干変わってくる可能性がありますので、そういう場合には学校に伝えることで、アレルギー対応のことについても留意しながら、そういうふうな対応をしてございます。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）続いて、おただしにお答えさせていただきます。

2018年から2027年までの第2次橋本市長期総合計画には、目標設定時の市内農家の平均所得は221万5,000円でしたが、2020年現在で249万1,000円と順調に伸びております。長期総合計画上の目標値は2022年で250万円、2027年で270万円となっています。

○議長（小林 弘君）10番 高本君の一般質問は終わりました。

○議長（小林 弘君）これにて一般質問を終
結いたします。

以上で本日の日程は終わりました。

本日はこれにて散会いたします。

（午前11時46分 散会）